令和3年度 強い農業・担い手づくり総合支援交付金(産地競争力の強化)の実施状況について

R2繰越 (農)秋田市南CE利用組合 穀類乾燥調製貯蔵施設

(1) 施設等の整備状況

○ 事業実施主体 (農) 秋田市南CE利用組合

○ 地区名等 秋田市四ツ小屋地区

○ 整備施設 契類乾燥調製貯蔵施設 延べ床面積1,566㎡

○ 対象作物 水稲、大豆

○ 事業費等 1,332,198千円

(うち交付金 603,054千円)



(2) 成果目標の達成状況

		目標値		成果目標の達成プログラム				
取組名	成果目標	計画時	目標年	1年度目	2年度目	3年目	4 年目	
		(R元)	(R5)	(R3)	(R4)	(R5:目標年度)	(R6)	
産地収益力の	水稲:下位等級指数*1 を10%以上削減	12.9% (事業実施年度の前7中5平均)	5.0%	_	5.0 %	5.0%	5.0%	
強化に向けた				_	11.9 %	79. 1%	26.5%	
総合的推進				_	15.2 %	-837. 7%	-172. 2%	
大豆:事業開始前年と 比較して作付面積2% 以上増加	大豆:事業開始前年と	3.7ha (事業実施年度の前7中5平均)	80. 0ha	_	80. 0 ha	80. 0ha	80. 0ha	
	比較して作付面積2% 以上増加			_	11.4 ha	19. 7ha	18. 5ha	
				_	10.1 %	21. 1%	19. 4%	

※1 下位等級指数:1等米以外の下位等級米の比率

※ 上段:計画 中段:実績 下段:達成率

(3) 事業の成果等

高齢化による離農者の増加や担い手の不足により、地区の営農継続が困難であったが、ほ場整備を契機とした担い手への農地集約の促進と水稲・大豆の乾燥調製作業を共同化する施設を新設することにより、地区の生産体制の強化につながった。

水稲の下位等級指数の削減については、令和6年産は天候不順で倒伏が多発したことで青米が多かったほか、割れ籾の多発で斑点米カメムシ類の被害も多く、目標達成に至らなかった。

また、大豆の作付け面積については、基盤整備事業実施中(令和11年度完了予定)のため目標達成に至らなかった。

(4) 目標達成に向けた対策

①水稲:下位等級指数の削減について

表1 令和5年度、令和6年度の水稲落等理由の割合(秋田なまはげ農協 水稲うるち玄米)

	落等理由全体に占める割合(%)					
年度	形質 (白未熟米等)	被害粒 (胴割米等)	着色粒 (斑点米)	その他		
R 5	81.5	3. 7	14. 4	0.4		
R 6	58. 1	6. 2	33. 3	2. 4		

上記より、令和5年度は8月から9月の高温少雨の影響で白未熟粒等が多発し、等級は大幅に低下した。令和6年度は割れ籾の数が 平年より多かったこともあり、斑点米等による落等が多い。

過去年度の反省を生かし、気象変動リスクを軽減する土づくりやきめ細かな水管理、斑点米カメムシ類の適期防除等の対策を徹底し、 CE利用者全体の品質の向上させるよう指導する。

②大豆:作付面積の確保について

表2 今後の地域の大豆作付の見通しについて

12 -	担い手	大豆作付面積(ha)						
地区		令和6年度 (実績)	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	
四ツ小屋	中野生産組合 佐々木 徹	5. 7	5. 3	9. 0	12. 0	16. 0	20. 0	
四ツ小屋	あきえい	1. 5	2. 1	2. 1	2. 1	2. 1	2. 1	
四ツ小屋	こあじファーム	0. 0	0. 0	0. 5	1. 0	1. 5	2. 0	
四ツ小屋	協伸	0. 0	0. 0	0. 5	1. 0	1. 5	2. 0	
四ツ小屋	上町ファーム	0. 0	0. 0	1. 0	2. 0	3. 0	4. 0	
四ツ小屋	すずしろファーム	0. 0	0. 0	1. 0	2. 0	3. 0	3. 0	
四ツ小屋	ファーム末戸松本	0. 1	0. 0	0. 0	2. 0	4. 0	5. 0	
上北手	(農)中北手ファーム 佐藤 宏悦	2. 6	2. 6	3. 0	3. 0	3. 0	3. 0	
上北手	一つ森ファーム	0.0	1.4	2. 5	4. 0	5. 0	6. 0	
仁井田	仁井田ファーム	0.0	0.0	0.0	1. 0	2. 0	3. 0	
仁井田	ハシモトファーム	0. 1	0.0	0.0	3. 0	5. 0	10. 0	
仁井田	タカハシ	0.0	0.0	0.0	1. 0	2. 0	3. 5	
仁井田	ファームM	0.0	0.0	0.0	1.0	2. 0	5. 0	
	新あきたファーマーズ	5. 2	6.0	7. 0	8. 0	10. 0	11. 4	
	その他個人農家	3. 3	1.0	0.0	0.0	0. 0	0.0	
合計	_	18. 5	18. 4	26. 6	43. 1	60. 1	80. 0	

令和11年度の基盤整備完成に向けて、上記のように大豆作付面積が増加していく予定である。目標達成に向けて、周辺生産者への大豆作付拡大の呼びかけを積極的に行うよう指導する。